

令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1 事業の状況

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

1. 平安書道研究会（主催・一般社団法人書芸文化院）平成31年4月～令和2年2月の間

毎月1回、東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館を会場に、第833回～第842回を実施した。各回テーマに沿った古筆を5～6点ずつ露出展示している。今年度は、令和3年3月期の第843回が新型コロナウイルスのため、開催出来なかった。このようなことは当研究会始まって以来のことで大変残念である。しかし、健康問題であるので如何ともし難い。この3月分の補充が問題として残されている。

2. 総合文化展「書画の展開—安土桃山～江戸」

日程・会場：平成31年3月12日～4月17日 東京国立博物館本館8室
「正親町天皇宸翰詠草切」1点を貸し出した。

3. 「第59回現代かな書道専門講座」（主催・かな書道作家協会）への貸し出し。

日程・会場：平成31年4月29日 日本教育会館

伝小野道風筆「小島切」、伝藤原行成筆「松籟切」など4点を貸し出した。

4. 「第71回毎日書道展 関西展, 東海展、特別講習会」への貸し出し。

日程・会場：令和元年8月16～18日 マイドームおおさか

11月6日 愛知県美術館ギャラリー

伝藤原佐理筆「筋切」、伝小大君筆「香紙切」などの3点を貸し出した。

古筆解説は飯島太比呂理事長が担当した。

5. 「平安時代の書の美—春敬の眼—」

日程・会場：令和元年10月1日～11月17日 東京国立博物館本館特別1室

伝藤原行成筆「大字和漢朗詠集」、伝宗尊親王筆「十卷本歌合切」、

藤原定信筆「般若理趣経」、伝西行筆「曾丹集切」など12点を貸し出した。

6. 「第38回 書道教養講座」（主催・一般財団法人日本書道美術院）への貸し出し

日程・会場：令和元年10月14日 日本教育会館

伝紀貫之筆「高野切第一種」及び伝紀貫之筆「高野切第三種」の2点を貸し出した。

(2) 写真の掲載許諾

1. (株)芸術新聞社発行の『30回の授業でわかる・入門 日本書道史』に藤原佐理筆「国申文帖」の掲載を許諾した。
2. (有)書芸文化新社『古筆カレンダー2020年』に藤原定家筆「三首詠草懐紙」、伝小野道風筆「本阿弥切」、など5点の掲載を許諾した。
3. NHKワールドジャパンの「書の宇宙」に「石山切(本願寺本三十六人家集)伊勢集」で利用するのに許諾した。
4. 東京書籍発行の高校書道教科書『書道I』(令和4年4月発行)に伝空海「隅寺心経」、藤原佐理筆「国申文帖」の掲載を許諾した。
5. 光村図書発行の高校書道教科書『書道I』(令和4年4月発行)に伝空海「隅寺心経」の掲載を許諾した。
6. 一般財団法人日本書道美術院発行の「書道美術」誌に伝紀貫之筆「高野切第一種」及び伝紀貫之筆「高野切第三種」2点の掲載を許諾した。
7. 一般財団法人日本書道美術院発行の「書道美術」誌に伝源順筆「梅尾切」、伝藤原忠家筆「天治本万葉集切」など4点の掲載を許諾した。

この他に学術書への掲載を無償で許諾。

國學院大學書道研究会編「若木書法第19号」に楊峴筆「臨論經書詩」の掲載を無償で許諾した。

2. 書道に関する展覧会の開催(第5号事業関係)

(1) 「第70回連合書道展」、「第33回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第70回連合書道展」を令和元年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は14団体。総出品点数は506点(前回503点)。

観客入場者数6481名(前回6373名)であった。9月1日(日)には、席上揮毫を24名の先生方で実施。今年度は開会初日の席上揮毫となったが、幸い大変好評で200名を超える参観者を得た。また、特別企画として、同展覧会場内で「第33回関東女流書展」を開催した。関東地方を代表する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に197点(前回203点)の出品があった。

また、連合書道展の一環として平安書道研究会受講生による「臨書コーナー」を設けた。昨年と同様に34名の受講生の出品を得ることが出来た。出品者からは、日頃の研修の成果を発表することができたと好評であった。今後も継続していきたい。

3. 書道専攻者の養成(第7号事業関係)

(1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ

平安書道研究会を開催。令和元年度は、令和元年4月（832回）から令和2年2月（842回）まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館で開催した。毎回200名を超す熱心な参加者を得ている。期末テスト・卒業レポートなどで学生のレベルの向上が見られるのは喜ばしいことである。今回は、3月期の研究会から開催が出来ず、令和2年度の4月、5月を含め、今後の対応が必要となっている。

「臨書実技講座」は令和2年9月29日に松井玉箏先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の助けをいただき35名が出席し実施。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることは出来、毎回好評である。

(2) 日本書道史研究講座の開催

昭和32年に平安書道研究会に併設して開講され、以後毎月1回日本書道史を体系的に学び特にその通史を中心に学ぶ日本書道史研究講座を、平成31年4月から令和2年2月まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館で開催した。平成28年5月に入学した第60期生15名が平成31年4月に3か年の全課程を終えて卒業した。

令和元年度の第63期入学生は31名であった。これは、講師の先生方や正会員の先生方の積極的なご支援により多くの入学者を迎えることが出来た。

4. その他

(1) ホームページの開設

一昨年来から懸案であった、ホームページの開設及び運用が令和元年度6月ころより動き始め、今回のコロナウイルス関連で休会等が生じた場合には、直ちにその旨の掲示を行ったり、事後の報告などの情報を掲示したりすることで、受講生への伝達の大きな武器になっている。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

(2) 講師の先生を囲む会の開催

令和2年2月9日に恒例の2月期の平安書道研究会終了後、東京都美術館のレストランに於いて、「講師の先生を囲む会」を実施した。外部講師と内部講師及び正会員の総勢77名の方々(内受講生47名)が集い、熱心な意見交換も含め和気藹々のうちに2時間はあっという間に過ぎた。昨年同様に有意義な会になった。

以上